

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
神経研究所セミナー

日時：平成26年1月24日（金） 16：00～17：30

場所：3号館セミナー室

演者：古屋敷 智之 博士

京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター

演題：ストレスによる情動変容と炎症関連分子群

社会や環境から受けるストレスは鬱病や PTSD など精神疾患発症のリスク因子となるが、そのメカニズムは不明であり、ストレスを標的とした創薬は確立していない。動物研究から、多様なストレス刺激が脳内の炎症関連分子の産生を促すことが知られるが、その役割や作用機序は不明であった。我々は、マウスうつ病モデルとされる反復社会挫折ストレスによる抑鬱の誘導に、炎症関連分子プロスタグランジン PGE_2 のミクログリアでの産生と PGE 受容体 EP1 を介した前頭前皮質でのドパミン系抑制が重要であることを示した。さらに、反復社会挫折ストレスによるミクログリア活性化に自然免疫関連分子が必須であることも見出している。本講演では、ストレスによる情動変容において、ミクログリアを取り巻く炎症関連分子群が果たす役割に関する最新の知見を紹介する。

担当・連絡先：関口正幸（疾病研究第四部）